令和４年度　奈良県立国際高等学校　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和４年度（中期計画１年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	○　多様な人々との積極的なコミュニケーションを通して、グローバルな視点でものごとを捉え、国際社会の平和と発展に貢献する資質・能力を育成します。 ○　強い探究心と主体性をもって、国際社会で新たな価値を創造していく自律した態度を育成します。 ○　国際社会で求められる自他を尊重する精神と豊かな感性を育成します。 ○　健やかな心身により、国際社会で活躍するための旺盛な行動力を育成します。
年度重点目標	○　ESDの推進 ○　「主体的・対話的で深い学び」の推進 ○　生徒の健やかな心身育成のための支援 ○　キャリアデザイン力の育成 ○　学校の円滑な運営 ○　働き方改革を念頭においた職場環境の整備　　※具体は別シートに記載

1　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ・本校の使命や育成を目指す資質・能力を理解し、教育課程全般に前向きに取り組むことができる生徒 ・中学校段階で求められる基礎的な学力を身に付けている生徒 ・多様な人々とのコミュニケーションに意欲的に取り組む生徒 ・国際社会の平和と発展に貢献する意欲をもつ生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校では、Mission実現のため、以下の教育を行います。 ・ICTの活用により個別最適な学びを目指します。 ・探究活動をはじめとするあらゆる教育活動で協働的な学びを推進します。 ・学校設定教科「国際教養」を中心においた系統的総合的な教育課程を編成します。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けて学校全体でカリキュラムマネジメントを徹底します。 ・「世界とつながる高校。」をテーマにグローバル教育を推進します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 ・社会の様々な課題について、探究心をもって課題を発見し、解決に導く。（探究力） ・自分の考えや常識にとらわれず、創造的に考え、新たなアイデアを生み出す。（創造力） ・文化や言語の違いを超えて、協力・協働しながら互いに高め合う。（協働力） ・文化や考えの違う他者の意見や存在を、社会をよりよくしていくための重要なものとして受け入れ共に高めようとする。（寛容さ） ・課題について、失敗を糧にしながら意欲的に解決に向かう。（挑戦力、レジリエンス） ・希望する進路に向けて、課題を把握し、解決のために行動を起こす。（キャリアデザイン力）

2　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

※A:達成している　B:概ね達成している　C:改善が必要である

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和４年度末の目標値等（Ｃ）	令和４年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	分析	学校関係者評価（Ｆ）	改善方策
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	教育相談体制の充実	教育相談体制の構築	個別の生徒対応度85%以上	個別の生徒対応度83.9%	B	目標値はほぼ達成。組織体制構築の必要あり。	B	教育相談を複数名で担当する必要がある。
	学校保健活動の充実	感染症対策の徹底	学校保健委員会の開催年２回	２月に１回開催	B	対策徹底により感染拡大を防ぐことができた。学校保健委員会は書面で開催した。	B	行事過密を解消する。
２．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり	個人探究週間の取組の充実	授業満足度70%以上	授業満足度77.5%	A	目標値は達成。個人探究週間には探究、キャリア関係の行事を実施することができた。	A	探究週間の午後の活用方策をさらに検討する。
	ICTの効果的な活用	アプリの精選	ICT活用度70%以上	ICT活用度68.3%	B	ICT活用度の数値は年々下がってきている。アプリの精選を実施した。	B	最適なアプリを研究する。ICT活用好事例を共有する。
	働き方改革を念頭においた職場環境の整備	分掌間の連携・調整	総合健康リスク110	総合健康リスク95	B	目標値は達成。超過勤務時間は引き続き高い。分掌長の協力で連携は取れている。	B	管理職が中心となった分掌連携体制を構築する。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリアサポート体制の整備	１期生の進路実現に向けた全校支援体制の構築	進路支援度80%以上	進路支援度64.4%	B	生徒は57.3%。３年教員中心で総合型選抜受験の際の生徒支援も実施できた。	B	進路支援を全校体制に広げる。
	インターンシップやフィールドワークの充実	受け入れ機関の開発	インターンシップ・フィールドワーク参加者10%	インターンシップ・フィールドワーク参加者98.1%	A	アカデミックインターシップは、「スタディツアー」に参加することでほぼ全員が達成。	A	引き続き、フィールドワークや高大連携に力を入れる。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	グローバルマインドの育成	海外連携校の開発	海外連携校5校	オンライン交流実施校９校　姉妹校１校	A	海外交流コーディネーターを中心に海外連携を拡大した。	A	引き続きオンライン交流、姉妹校締結を進める。
	外部機関との連携の促進	大学や地域など関係機関の発掘	外部機関との連携回数　15回	連携行事回数34回(11月末まで)	A	グローバル探究を中心に多方面の機関との連携を推進した。	A	連携の窓口を一本化する必要がある。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育、多文化理解の推進	豊かな心を育む人権教育推進体制の構築	満足度85%以上	満足度86.6%	A	人権教育推進方針を全面的に見直した。学校満足度の目標値は上回ることができた。	A	全職員の目線合わせによって更なる向上を目指したい。
	個に応じた指導の効果的な実施	観点別評価の研究	多面的評価満足度80%以上	多面的評価満足度86.9%	B	多面的評価については満足度が高かった。観点別評価について、研鑽を積むことができた。	B	観点別評価方法の改善・定着が求められる。

※　アンケートは7月・2月に実施　数値は２月実施のもの

3　評価結果の分析、今後の改善方策等

生徒・保護者向けに実施したアンケート結果から、学校満足度（※）は８６．６%と本年度の目標を達成することができた。本校の特色ある取組に対して一定の評価をいただいていると感じている。ただし、新たな取組が多い上に、次年度中学校開校に伴う業務も増えており、教員の勤務環境をどのように整備していくか、人材リソースのマネジメントが今後の大きな課題となっている。　※学校満足度：本校に入学してよかった・させてよかったと回答した生徒・保護者の割合